

福島県東京事務所 伊藤所長が、本県を応援くださる企業の方々と対談する企画は第2回目を迎えました。今回のゲストは、城南信用金庫第13期ジュニアボードの皆さん。

平成30年12月に実施された福島県内への研修の感想や研修後の心境の変化などを伺いました。



○写真左から

城南信用金庫

神田支店 安西 美咲さん  
(平成25年度入職)

品川支店 水野 裕太さん  
(平成24年度入職)

ひぶすま  
碑 衾 支店 牧内 実佳さん  
(平成24年度入職)

きぬた  
砦 支店 佐野 芳典さん  
(平成23年度入職)

福島県東京事務所長

伊藤 直樹

城南信用金庫

鶴見支店 渡邊 雄太さん  
(平成22年度入職)

上星川支店 土井 怜奈さん  
(平成22年度入職)

## ■城南信用金庫のこれまでの取組み

震災直後の平成23年4月下旬にバスをチャーターし、役職員の皆さまが本県の被害状況を視察したことがきっかけで、様々な支援を継続して実施されています。

### ○「お座敷列車で福島へ行こう」

平成26年4月24日～25日、5月20日～21日、5月21日～22日の1泊2日、城南信用金庫取引先の方々が、福島市内や会津若松市内を観光し、福島を応援。

また、平成31年4月11日から5月30日までの計14回（1泊2日）、城南信用金庫取引先の方々が福島県いわき市に約3,000名来県の予定。

○福島県内の若手経営者と城南信用金庫未来塾（若手経営者向け経営塾）の交流を目的としたセミナーを開催（平成27年9月7日）

### ○「“よい仕事おこし”フェア」（平成24年度から毎年開催）

全国の信用金庫と連携してビジネスフェアやビジネスマッチング、東北の復興支援イベントを開催。

平成29年度は福島県を始め、宮城県、岩手県、熊本県の米を使用した日本酒「絆結（きゆ）」を販売し、翌年度は、全国47都道府県の米を使用した日本酒「絆舞（きずなまい）」等を販売。

## ■城南信用金庫ジュニアボードとは

平成24年度より開始した制度。入職5～10年目の職員6名により組織され、任期は半年。現在14期。

経営に若手・中堅職員の斬新な意見を取り入れて、組織の活性化を図るとともに、経営者意識を持つリーダーを育成するための制度。

## ■福島県視察の概要

(1) 日 程 平成30年12月11日～12日の1泊2日

(2) 訪問先 福島信用金庫、(株)中野製作所、齋栄織物(株)、古関裕而記念館、福島民報社、福島県危機管理センター

**伊藤：** 福島県は、これまで多くの企業を始め様々な人たちから御支援いただきながら、復興に向けた取組を実施しています。今年から、一方通行のPRではなく、双方向の情報発信を実施しようと、対談「キーマンに聞く！」を開始しました。

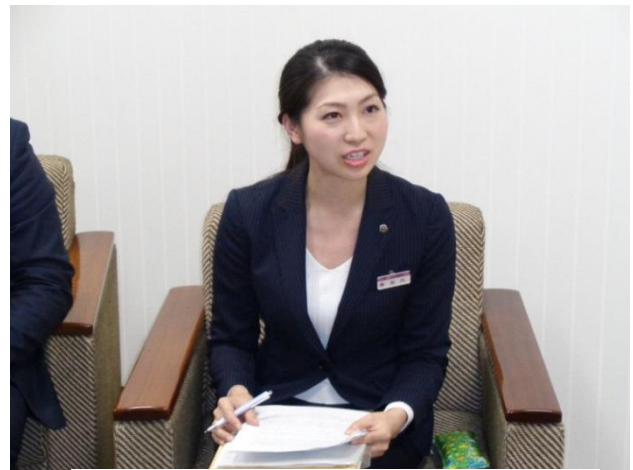
今回、城南信用金庫ジュニアボードの皆さんは、福島県内を視察研修を行いました。そこで、将来の城南信用金庫を担うキーマンである皆さんたちとお話しさせていただくこととしました。

近年、地域貢献活動が見直されています。全国的にも災害が多発しており、個人・法人を通して、皆さんは今までどのような支援活動を行ってきたか、どのような考えを持っているかお聞かせください。

**牧内：** 私の所属する碑衾支店では、地域のイベントの

お手伝いを始めとする地域貢献活動を行っているのですが、その中でも地元の飲食店がもっと賑わい、地域全体が活性化されるよう『碑衾さんぽ』といって定期的に最寄駅周辺の飲食店を取材し、記事にしたものを支店に掲示しています。実はこの取組が近隣で好評になり、現在では他の支店と協力して冊子を制作し、お客様に配布しています。

自分が携わったことで街が元気になる姿を実際に感じとることができ、そして何よりも活動を通して出会った人達との繋がりができること、喜んでいただけることをとても嬉しく感じています。また私自身も発見や気づきがたくさんあるので、これからも積極的に行っていきたいと思えます。



【碑衾支店 牧内 実佳さん】

**水野：** 私はこれまで、運動会や餅つき大会を始め、防災訓練やゴミ拾いなど、様々な社会貢献活動に参加してきました。中にはこれまでに一度も経験をしたことがない活動もあって、地域それぞれに特色があり、お客様ごとに多種多様で異なる考え方を学ぶことができました。

私たちは地域の方々と一日の大半を過ごしているので、信用金庫は地域あってのものだと思っています。これからも地域に深く根ざし、深く耕して、お客様との関係を築いていきたいと考えています。



【品川支店 水野 裕太さん】

**安西：** 当金庫は地域に密着した金融機関として、地域

の皆様との交流にも力をいれております。私自身入職後、城南信用金庫の職員として、地域の清掃活動等に参加し、先日は地元町内会の防犯活動のお手伝いなどにも参加してきました。

また、被災地支援としては、友人と一緒に被災地域を訪問したり、その地域の特産品を東京で購入するなどの活動を行ってきました。

震災直後に宮城県石巻市を訪問した際、地図が全く役に立たないほど津波の被害で、何もなくなってしまった状況を目の当たりにし、テレビの映像だけでは伝わらない現状を知りました。また、現地の方々に歓迎していただき、楽しく過ごすこともできました。訪問後は口コミなど、自分が周りに発信することでさらに観光客を呼び込むようなことができたかと考えるようになりました。先日の福島県への研修先でも、福島県庁職員の方からCMの力やSNSなどの口コミの力を感じるとの話がありました。

当金庫では、今春開催される福島への旅行会や「よい仕事おこし」フェアなどのイベントを通じて、視察で学んだ福島県の魅力を、お客様へ発信し伝えていくことが地域貢献になるのではないかと考えています。イベントなどの発信がその地域を元気にし、日本全国を元気にすることにも繋がるのではないのでしょうか。



【神田支店 安西 美咲さん】

**伊藤：** ありがとうございます。「地域」というキーワードが皆さんから出てきました。城南信用金庫さんは「地域密着型」として地域貢献されているからですね。また、皆さんから、仕事の義務感からではなく、自ら考えて支援活動を行っているとの話を聞いて、大変うれしく心強く思いました。

次に、今回の研修の感想をお聞かせください。



【視察先 福島信用金庫】

**牧内：** 率直なところ、視察をするまで福島県は被災のダメージが大きく、街全体や人に活気がないのではという先入観がありました。しかし実際に訪問すると、視察先の方々からの話を聞き、皆さんが復興に向けてひたむきに進み、福島県全体を元気にしようと生き生き活動されており、前向きに取り組む姿がとても印象的でした。

また何より、「よい仕事おこし」フェアへの招待がきっかけで信用金庫や企業、県全体が元気になることができたこと、たくさんの感謝の言葉をいただきました。当金庫の活動が地域の元気づくりに繋がったと改めて感じることでとても嬉しかったです。

**渡邊：** 率直に福島県を訪問してとても楽しかったです。

視察先では、おいしい食事やおいしい桃をいただきました。福島にはおいしいものがたくさんあること、また、フルーツ王国だということも初めて知りました。福島県の新しい魅力を発見することができ、有意義な視察となりました。



【視察先 福島県危機管理センター】

**安西：** 私の父は福島県会津若松市の出身で、何度も福島県に帰省していました。日頃から福島県に関心を持っているつもりでいましたし、風評被害が未だに続いている実感がなかったのですが、視察先の皆さんの話を聞いて、まだまだ私が知らない問題を抱えていることが分かり、とても驚き、それはショックでした。

皆さんの復興に向けた取組への思いは、自分たちの地域をより良くしたい、“地域のため”という思いであるということを知ることができ、当金庫の経営理念に通じるものがあると思いました。

また、当金庫の取組や活動を多くの皆さんが知ってくださっていたことが印象的でした。今後、私もイベントなどに取り組む際は、皆さんの喜んでくださっている笑顔を感じながら、さらに頑張ろうと思いました。

**伊藤：** ありがとうございます。皆さんが福島県を訪問し、この研修を通して「純粋に楽しかった」、「おいしかった」、「新たな発見があった」、「前向きに取り組む福島県の気持ちを感じることができた」など、様々な意見を聞くことができ大変にうれしく思います。

また、城南信用金庫さんの取組みが福島県の復興に大きく貢献しているということが身をもって感じていただけたのは良かったです。福島県に来て、感じて、新しい発見をしてもらうことが、最大の取組みの一つです。私たち福島県も復興に向けて地道に1つ1つ積み上げていきたいと考えております。

では、今回の研修を通して考え方の変化、心境の変化をお聞かせください。

**佐野：** 私は研修前までは「復興」という言葉を誤解していたと思いました。私の中では、復興活動を行うことで震災前の状態に回復させる活動が復興と認識しておりました。しかし、視察先の皆さんから「震災前よりも地域を繁栄させたい、貢献したい」との話を頂きまして、復興とはそういうことなのだとな非常に勉強になりました。本当に皆さんが地域のことを本気で考えているのだと思いました。私も城南信用金庫の職員として、地域のためにもっと動かなければと勉強させていただきました。



【砧支店 佐野 芳典さん】

**土井：** 今回の研修を通して、福島のこと、そして、日本全体のことをあまりにも自分が知らなすぎると痛感致しました。



【視察先 福島民報社】

「百聞は一見にしかず」といいますが、新聞やニュースなどでは分からない部分があり、実際に人に聞いたり、自分が行き、自分で聞いて、自分で食べて、自分自身で確かめることが大切だということを感じました。

**水野：** 今回の研修前から、テレビやインターネット等で福島県の状況はいろいろと見聞きしていました。実際に訪れてみると、事前に入手していた情報と違っていただけもありました。私の父は岩手県大船渡出身で、父の実家も被災しました。海沿いから15メートルほどしか

離れていない場所であり、震災後には掘りごたつの跡しか残っていませんでした。実際に訪問して知る現状と、東京に戻って報道を通して知る現状では私の中ではギャップがありました。報道では、真実が全部放送されていなかったりと、実際に訪問した人間にしかわからないことがあると、改めて今回の研修で思い知らされました。

この研修をきっかけとして、今後は岩手県に加え福島県についても関わっていきたいと思います。

**伊藤：** 皆さんから今回の研修を通して、「百聞は一見にしかずだった」、「これまで以上により深く物事を知ることができた」、「実は皆さんが同じ悩みを持っていた」などの刺激や発見があり、今後の人生において生かしていきたいとの熱い想いを確認しました。

それでは、最後に福島県に対して、メッセージをお願いします。

**渡邊：** 今回の訪問で福島県の魅力を改めて、たくさん知ることができました。本当にありがとうございます。恥ずかしながら、福島県について訪問するまで知らないことがありましたが、福島のことが一層気にかかるようになりました。2日間でこれだけの魅力を発見できたので、まだ訪問していない地域を始めとした福島県の魅力を知るチャンスがまだまだあると思いました。

今後も福島県のみならず、日本を明るく元気にする活動をしていきたいとここにいる全員が思っているので、福島県の皆さまと一緒に実現していけるような活動をしていきたいと思いました。



【鶴見支店 渡邊 雄太さん】

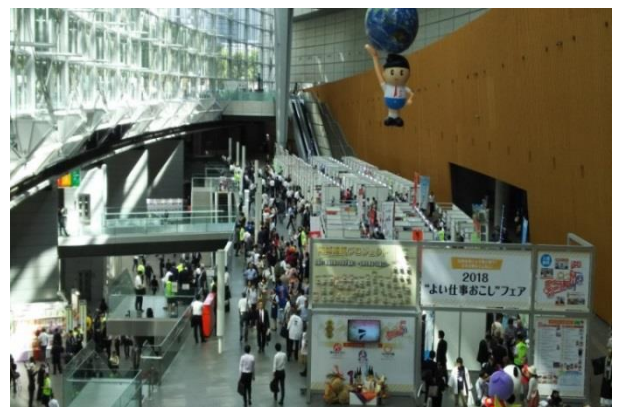


【上星川支店 土井 怜奈さん】

さんとの絆を大切に、日本を元気にできるよう取り組んでまいります。

**佐野：** 今回の視察を通して、福島県の皆さんの強さや絆を非常に感じました。地方が元気になれば日本も元気になるという思いのもと、日本全体が明るく元気になるためにもその強い絆の中に入れていただきたいと思っております。

**土井：** 福島県の皆さんが一丸となって復興に取り組んでいる姿にとっても感動いたしました。特に福島県庁での東日本大震災の教訓を踏まえた取組みが非常に勉強になり、ぜひとも多くの人に見ていただきたいと思いました。福島県の皆さんの地域を大切にする姿は、今の日本にとって、とても大切なことだと思います。地域を大切にし、地域に対して何ができるのかを考えて行動することで地域が発展していくのだと思います。今後も城南信用金庫の職員として、地域のために何ができるのかを考えて行動し、福島を始めとする様々な地域の皆さん



【2018 “よい仕事おこし” フェア】

福島県を始め、東北の復興という目的から始まった「“よい仕事おこし”フェア」等の様々な活動を通じて、こちらからも皆様と一緒に考え、行動していきたいと考えております。

**伊藤：** ありがとうございます。皆さんには何回も福島県に足を運んでいただき、訪問先で食べたり、飲んだりなど様々な体験を通して、福島のファンになって応援していただければと思います。

最後に城南信用金庫 川本副理事長から寄稿していただきました。

## タイトル：「城南信用金庫が被災地に対して担う役割」

城南信用金庫では東日本大震災直後から、被災地の皆さまを応援する活動を続けているところですが、大変有難いことに、活動に対する共感のお声や、協力のお申し出を非常に多く頂いております。被災地が復興を果たし、創生を遂げるまでは、こうした志を共にする、全国の金融機関・自治体・企業・そして地域住民の皆さまを、温かい絆で結ぶ活動が必要であり、その役割を担うのが信用金庫だと考えております。

特に、弊金庫は東京・神奈川という経済活動の中心地域にあるため、私どもが旗振り役となることで、今後も全国の地域の絆をつなぎ、日本が明るく元気になるよう、全国の被災地の復興応援に取り組んでまいりたいと考えております。



【城南信用金庫副理事長 川本恭治さん】